



石垣島初記録の魚類 11 種

是枝伶旺¹・古橋龍星¹・橋本慎太郎¹・清水直人²・出羽優風¹・本村浩之³

Author & Article Info

- ¹ 鹿児島大学大学院連合農学研究科（鹿児島市）
RK: k4920583@kadai.jp (corresponding author)
² 沖縄県八重山農林水産振興センター（石垣市）
³ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）

Received 30 April 2025
Revised 04 May 2025
Accepted 04 May 2025
Published 05 May 2025
DOI 10.34583/ichthy.55.0_15

Reo Koreeda, Ryusei Furuhashi, Shintaro Hashimoto, Naoto Shimizu, Yuna Dewa and Hiroyuki Motomura. 2025. First records of 11 fish species from Ishigaki-jima island, Yaeyama Islands, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 55: 15–22.

Abstract

A total of 11 fish species, *Synodus jaculum* Russell and Cressey, 1979 (Synodontidae), *Phoxocampus belcheri* (Kaup, 1856) (Synnathidae), *Amsichthys knighti* (Allen, 1987) (Pseudochromidae), *Apogon crassiceps* Garman, 1903, *Cheilodipterus intermedius* Gon, 1993, and *Yarica hyalosoma* (Bleeker, 1852) (Apogonidae), *Enneapterygius cerasinus* Jordan and Seale, 1906 and *Enneapterygius signicauda* Fricke, 1997 (Tripterygiidae), *Austrolethops wardi* Whitley, 1935 and *Kelloggella quindecimfasciata* (Fowler, 1946) (Gobiidae), and *Arothron reticularis* (Bloch and Schneider, 1801) (Tetraodontidae), is newly recorded on the basis of collected specimens from Ishigaki-jima island, Yaeyama Islands, Japan.

石垣島は琉球列島南部に位置する八重山諸島に属する島嶼である（Motomura and Matsunuma, 2022: fig. 5.2）。石垣島には数多くの魚類の生息が知られており（例えば、Senou et al., 2006b；中坊, 2013；本村, 2025），Senou et al. (2006b) は水中写真と文献調査に基づき、石垣島沿岸の水深 50 m 以浅に生息する浅海魚を 672 種と見積もり、科レベルでの魚類相を表に示した。吉郷（2014b）は琉球列島の陸水域から記録のある魚種（海水魚の偶発的な出現記録を含む）を目録的に報告し、このうち 272 種の石垣島における出現を認めた。しかし、同島に焦点を置いた包括的な魚類相調査の成果は公表されておらず、これまでに石垣島から記録された魚類の総種数は明らかでない。

現在、鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）には 1969–2025 年にかけて採集された石垣島産の 1,011 標本が収蔵されている。石垣島の魚類相は正確な把握が困難な状況にあるが、KAUM 標本を精査した結果、石垣島から未記録と考えられる 11 種の魚類が確認されたため、ここに報告する。

材料と方法

標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。標準体長は体長または SL（standard length）と表記した。計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。リスト中の各種の学名と科の掲載順は本村（2025）にしたがった。種の同定は基本的に中坊（2013）を参照したが、他の文献を用いる、または根拠を示すことで同定を行った種については備考に記述した。本報告に用いた標本と生鮮時の写真は、鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている。本報告で用いた標本は全て沖縄県石垣市（石垣島）産であるため、標本の項目にはそれ以下の詳細な地名のみ表記した。ただし、生息地の保護の観点から一部の標本においては詳細な産地情報を省略した。

石垣島初記録の魚類リスト

エソ科 Synodontidae

Synodus jaculum Russell and Cressey, 1979**オグロエソ** (Fig. 1A)

標本 2 個体:KAUM-I. 192876, 体長 93.0 mm, KAUM-I. 192877, 体長 90.1 mm, 南ぬ浜町南方沖, 水深 3–10 m, 釣り, 2023 年 11 月 8 日, 井上夏樹・久保田昂樹・城山宗士・原田善広。

備考 国内において本種はこれまでに伊豆諸島（八丈島・三宅島）、小笠原諸島（父島）、相模湾、駿河湾、和歌山県、愛媛県、高知県、日向灘、鹿児島県大隅半島（内之浦）・薩摩半島（坊津町）、大隅諸島（口永良部島・屋久島）、奄美群島（徳之島・沖永良部島）、沖縄諸島（沖縄島・慶良間諸島）、宮古諸島、および八重山諸島（西表島）から記

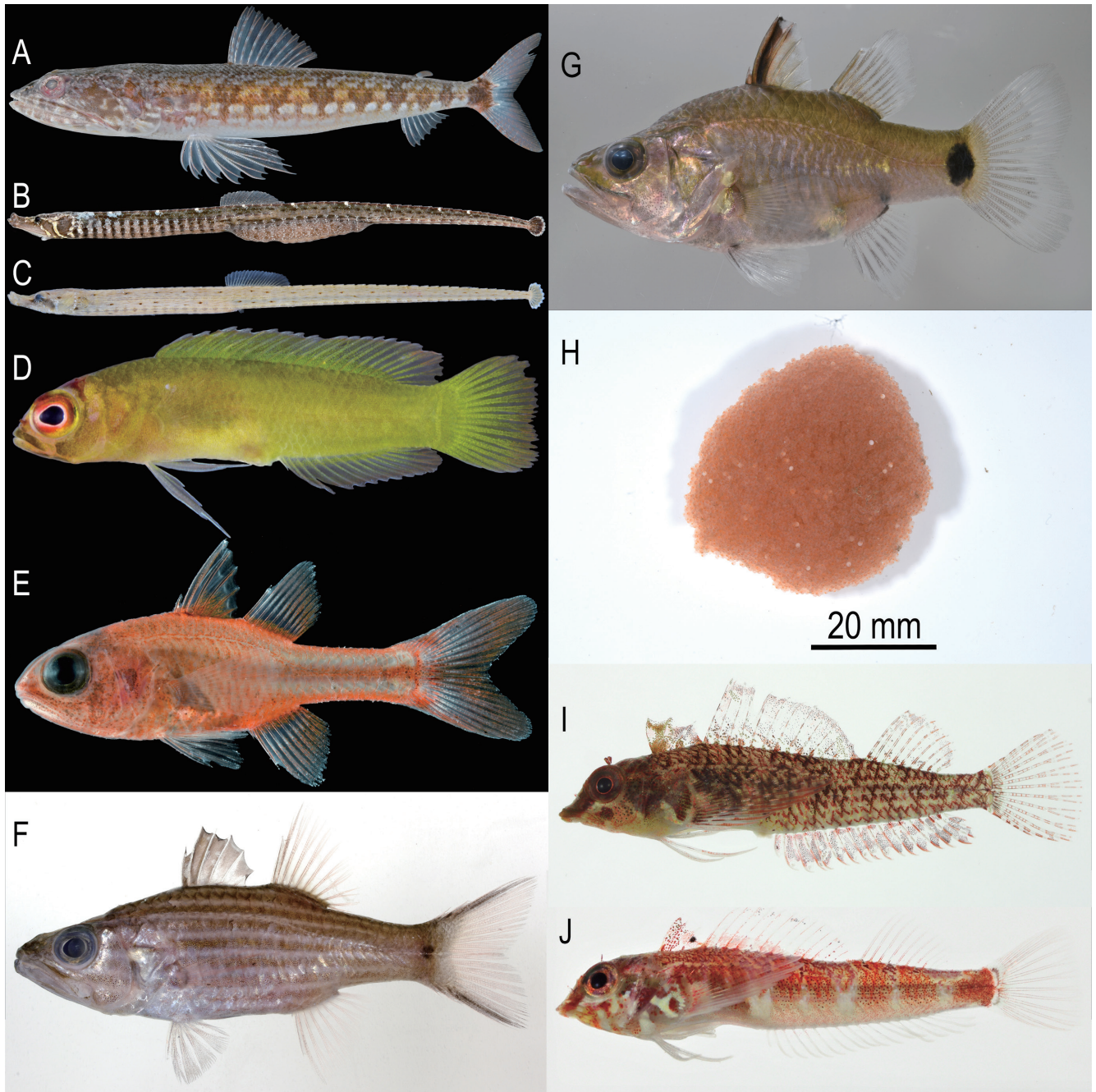


Fig. 1. Fresh specimens of *Synodus jaculum* (A: KAUM-I. 192876, 93.0 mm SL), *Phoxocampus belcheri* (B: KAUM-I. 215329, male, 50.2 mm SL; C: KAUM-I. 215331, female, 51.4 mm SL), *Amsichthys knighti* (D: KAUM-I. 46172, 21.4 mm SL), *Apogon crassiceps* (E: KAUM-I. 153887, 26.0 mm SL), *Cheilodipterus intermedius* (F: KAUM-I. 133975, 122.6 mm SL), *Yarica hyalosoma* (G: KAUM-I. 215300, 98.3 mm SL; H: KAUM-I. 215937, egg mass: scale bar indicating 20 mm), *Enneapterygius cerasinus* (I: KAUM-I. 62869, female, 29.7 mm SL), and *Enneapterygius signicauda* (J: KAUM-I. 62846, female, 17.6 mm SL) from Ishigaki-jima island, Japan.

録されていた（益田・小林, 1994; Randall et al., 1997; 山田, 1997; 吉郷・中村, 2002; 伊藤, 2003, 2009; Senou et al., 2006b, 2007; 山田・柳下, 2013a; 加藤, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; 畑ほか, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; 畑, 2018, 2020; 吉野, 2018; Mochida and Motomura, 2018; 篠原, 2019; Motomura and Uehara, 2020; 中村, 2022; 村瀬ほか, 2023; 深谷, 2023; 佐久間, 2023; 本田ほか, 2024). 本研究により新たに石垣島から本種が記録された。

山田 (1997) は“沖縄”で撮影された水中写真をオグ

ロエソに同定しており、畑ほか (2017) はこれの産地を沖縄島とみなした。本研究においてもこれを沖縄島からの記録とみなした。このほかに沖縄島からは吉郷・中村 (2002) が報告している。

ヨウジウオ科 Syngnathidae

Phoxocampus belcheri (Kaup, 1856)

ボウヨウジ (Fig. 1B, C)

標本 3 個体: KAUM-I. 215329, 雄, 体長 50.2 mm, KAUM-I. 215330, 雌, 体長 52.5 mm, KAUM-I. 215331, 雌,

体長 51.4 mm, 崎枝 御神崎, 水深 0–0.1 m, 徒手 (KAUM-I. 215331 はタモ網), 2025 年 3 月 14 日, 是枝伶旺.

備考 国内において本種はこれまでに神奈川県三浦半島, 鹿児島県薩摩半島, 大隅諸島 (屋久島), 奄美群島 (喜界島・沖永良部島), 沖縄諸島 (沖縄島・伊江島・渡嘉敷島), および八重山諸島 (与那国島) から記録されていた (吉郷ほか, 2005; Senou et al., 2006a, b; 渡井ほか, 2009; 吉郷, 2014a; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 松沼, 2019; Motomura and Uehara, 2020; 工藤ほか, 2022; 本田ほか, 2024; 吉田ほか, 2025). 本研究により新たに石垣島から本種が記録された.

メギス科 Pseudochromidae

Amsichthys knighti (Allen, 1987)

オオメタナバタメギス (Fig. 1D)

標本 KAUM-I. 46172, 体長 21.4 mm, 名蔵湾, 水深 5–10 m, 手網, 2012 年 4 月 25 日, 吉田朋弘・西山 肇.

備考 国内において本種はこれまでに大隅諸島 (硫黄島・竹島・口永良部島・屋久島), 奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島・喜界島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島 (沖縄島・伊江島), 宮古諸島, および八重山諸島 (与那国島) から記録されていた (林, 1993, 1997; 吉郷・中村, 2002, 2003, 2008; 吉郷ほか, 2005; Senou et al., 2006b, 2007; 吉郷・市川, 2012; 吉田ほか, 2013; 吉田, 2013a, 2019a; 林ほか, 2013; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 萩原, 2022; 本村, 2025). 本研究により新たに石垣島から本種が記録された.

テンジクダイ科 Apogonidae

Apogon crassiceps Garman, 1903

アカフジテンジクダイ (Fig. 1E)

標本 KAUM-I. 153887, 体長 26.0 mm, 真栄里 多田浜海岸, 水深 0.3 m, 手網, 2021 年 3 月 14 日, 古橋龍星.

備考 国内において本種はこれまでに神奈川県城ヶ島, 高知県, 宮崎県, 鹿児島県志布志・薩摩半島, 大隅諸島 (黒島・硫黄島・口永良部島・種子島・屋久島), 奄美群島 (奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島), および沖縄諸島 (渡嘉敷島・久米島・沖縄島・瀬底島) から記録されていた (Yoshida et al., 2010; 林, 2013a; 吉田, 2013b, 2014, 2019b; Motomura and Uehara, 2020; 田中ほか, 2020; 吉郷, 2021; Jeong and Motomura, 2021; 萩原, 2022; 工藤ほか, 2022; 出羽ほか, 2022; Motomura, 2023; 阿部ほか, 2024; 前田ほか, 2024; 本村, 2025). 本研究により新たに石垣島から本種が記録された.

Cheilodipterus intermedius Gon, 1993

スダレヤライイシモチ (Fig. 1F)

標本 KAUM-I. 133975, 体長 122.6 mm, 新栄町 石垣漁港, 水深 10 m, 釣り, 2019 年 10 月 25 日, 中村潤平.

備考 国内において本種はこれまでに伊豆諸島 (八丈島), 相模湾, 高知県, 愛媛県, 日向灘, 鹿児島県大隅半島 (内之浦)・薩摩半島 (坊津町), 大隅諸島 (口永良部島・種子島・屋久島), 奄美群島 (奄美大島・喜界島・徳之島・与論島), 沖縄諸島 (沖縄島・瀬底島・屋嘉比島を含む慶良間諸島), および八重山諸島 (西表島) から記録されていた (伊藤, 2003, 2009; 三浦, 2012; 林, 2013a; 加藤, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 小枝, 2018, 2020; 吉野, 2018; 吉田, 2019b; Fujiwara and Motomura, 2020; 和田ほか, 2021; 吉田, 2022; 萩原, 2022; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 橘ほか, 2024). 本研究により新たに石垣島から本種が記録された.

Yarica hyalosoma (Bleeker, 1852)

カガミテンジクダイ (Fig. 1G, H)

標本 6 個体: KAUM-I. 213779, 体長 37.3 mm, 川平湾湾奥へ注ぐ細流, 水深 0.1 m, 手網, 2024 年 11 月 29 日, 清水直人; KAUM-I. 215300, 体長 98.3 mm, 石垣島南部の河川, 水深 0.1 m, 2025 年 3 月 12 日, 清水直人; KAUM-I. 215340, 体長 50.5 mm, 石垣島南部の河川, 水深 0.5 m, 手網, 2025 年 2 月 22 日, 清水直人; KAUM-I. 215443, 体長 100.0 mm, KAUM-I. 215935, 体長 43.1 mm, KAUM-I. 215936, 体長 41.4 mm, 石垣島南部の河川, 水深 0.5 m, 手網, 2025 年 12 月 10 日, 清水直人; KAUM-I. 215937, KAUM-I. 215443 が吐き出した卵塊.

備考 国内において本種はこれまでに八重山諸島の西表島と与那国島からのみ記録されていた (林, 2013a; Koeda et al., 2016; 國島ほか, 2023). 本研究により新たに石垣島から本種が記録された. 本研究で得られた個体はいずれもヤエヤマヒルギ *Rhizophora stylosa* Griffith, 1854 の水中根や岩陰などの障害物に単独で隠れているところを捕獲された. KAUM-I. 215443 は捕獲前に卵塊を口内に保持しており, 捕獲後に卵塊を吐き出した (KAUM-I. 215937: Fig. 1H). テンジクダイ科魚類では産卵後に雄が卵を口内保育する例が多く知られており (林, 1999; 前田ほか, 2024), 本種は石垣島で再生産を行っている可能性が高い. しかし, 國島ほか (2023) は西表島における本種の出現状況を詳述し, その危機的な生息状況を報告した. 石垣島においては 2022 年以降継続的に石垣島から本種が確認されているが (和田昇己氏, 私信), それ以前の生息情報はなく, 石垣島においてカガミテンジクダイが安定した個体群を維持できているかは不明である.

得られた標本のうち1個体 (KAUM-I. 215340) は採集後、第4著者の自宅にて約3週間の飼育を行った。本個体は採集された翌日から乾燥アカムシとブラインシュリンプをよく摂食していた。また、飼育下では朝昼間は水槽の底面にとどまりほとんど動くことはなかったが、夜間になると中層へ移動し泳ぎ回る様子が確認された。

ヘビギンボ科 Tripterygiidae

Enneapterygius cerasinus Jordan and Seale, 1906

セダカヘビギンボ (Fig. 1I)

標本 4個体:KAUM-I. 62867, 雌, 体長 18.6 mm, KAUM-I. 62868, 雌, 体長 19.4 mm, KAUM-I. 62869, 雌, 体長 29.7 mm, KAUM-I. 62870, 雌, 体長 22.5 mm, 川平石崎沖, 水深 0.5–2 m, 手網, 2014年7月16日, 吉田朋弘・田代郷国。

備考 国内において本種はこれまでに奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島・江仁屋離島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島 (沖縄島・瀬底島・久米島), および宮古諸島 (伊良部島) から記録されていた (吉郷・中村, 2002, 2003, 2008; 吉郷ほか, 2005; 林, 2013b; Nakae et al., 2018; 田代, 2019; Motomura and Uehara, 2020; 萩原, 2022)。本研究により新たに石垣島から本種が記録された。なお, セダカヘビギンボの学名として従来用いられていた *Enneapterygius unimaculatus* Fricke, 1994 は, *E. cerasinus* Jordan and Seale, 1906 の新参異名とされた (Dewa et al., 2023; Dewa and Motomura, 2024)。

Enneapterygius signicauda Fricke, 1997

オグロヘビギンボ (Fig. 1J)

標本 KAUM-I. 62846, 雌, 体長 17.6 mm, 名蔵湾, 水深 8.5 m, 手網, 2014年7月13日, 吉田朋弘・田代郷国。

備考 本標本は前方有孔側線鱗数が19であること, 後方欠刻側線鱗数が16であること, 下顎中央の感覚管開孔数が1であること, 体側に細いI字型とくさび型の白色縦帯が交互に3本ずつならぶこと, および腹鰭と臀鰭が白色であることなどの特徴が Fricke (1997) と出羽・本村 (2025) が示した *E. signicauda* の特徴と一致したため本種に同定された。国内において本種はこれまでに奄美群島 (奄美大島・沖永良部島・与論島) と沖縄諸島 (沖縄島・伊江島) から記録されていた (林, 2013b; 加藤, 2014; Nakae et al., 2018; 田代, 2019; Motomura and Uehara, 2020)。本研究により新たに石垣島から本種が記録された。

ハゼ科 Gobiidae

Austrolethops wardi Whitley, 1935

ヨミノハゼ (Fig. 2A, B)

標本 3個体:KAUM-I. 212650, 雄, 体長 23.2 mm, 川平, 水深 0.1 m, ヤビーポンプ, 2024年10月6日, 清水直人;

KAUM-I. 215256, 雌, 体長 34.9 mm, 川平, 水深 0.1 m, ヤビーポンプ, 2025年3月15日, 古橋龍星; KAUM-I. 215257, 雌雄不明, 体長 19.5 mm, 川平, 水深 0.1 m, ヤビーポンプ, 2025年3月15日, 清水直人。

備考 国内において本種はこれまでに和歌山県と沖縄諸島 (沖縄島) から記録されていた (明仁ほか, 2013; Sato and Komai, 2023; 大西ほか, 2024)。本研究により新たに石垣島から本種が記録された。

本種はインドネシアにおいてヤハズアナエビ *Neaxius acanthus* (A. Milne-Edwards, 1879) の巣穴内に生息する生態が報告されており (Kneer et al., 2008), 近年になり, 国内においても沖縄島に生息するヤハズアナエビの巣穴から本種が報告された (Sato and Komai, 2023)。本研究においても海草藻場に生息するヤハズアナエビの巣穴から本種が採集された。

Kelloggella quindecimfasciata (Fowler, 1946)

ハダカハゼ (Fig. 2C, D)

標本 5個体:KAUM-I. 153938, 雄, 体長 19.3 mm, KAUM-I. 153939, 雌, 体長 15.9 mm, KAUM-I. 153940, 雄, 体長 15.3 mm, 川平石崎, 水深 0 m, 徒手, 2021年3月16日, 是枝伶旺; KAUM-I. 153941, 雄, 体長 20.2 mm, KAUM-I. 153942, 雄, 体長 20.1 mm, 川平石崎, 水深 0 m, 徒手, 2021年3月18日, 是枝伶旺。

備考 国内において本種はこれまでに奄美群島 (奄美大島・喜界島・沖永良部島), および沖縄諸島 (沖縄島・粟国島・渡嘉敷島) から記録されていた (明仁ほか, 2013; 吉郷, 2014b; 田中ほか, 2020; Fujiwara et al., 2020; 赤池ほか, 2021)。本研究により新たに石垣島から本種が記録された。

フグ科 Tetraodontidae

Arothron reticularis (Bloch and Schneider, 1801)

ワモンフグ (Fig. 2E, F)

標本 3個体:KAUM-I. 215302, 体長 91.7 mm, KAUM-I. 215303, 体長 77.9 mm, 大浜 磯辺川, 水深 0.5 m, 手網, 2025年3月12日, 是枝伶旺・橋本慎太郎; KAUM-I. 215364, 体長 90.2 mm, 桃里 伊野田漁港, 水深 5 m, 釣り, 2025年3月12日, 是枝伶旺。

備考 国内において本種はこれまでに千葉県, 兵庫県家島諸島 (男鹿島), 山口県日本海側, 宮崎県, 鹿児島県薩摩半島, 大隅諸島 (屋久島), 奄美群島 (奄美大島・沖永良部島), 沖縄諸島 (沖縄島), および八重山諸島 (西表島) から記録されていた (Matsuura and Toda, 1981; 松浦, 1997; 江口ほか, 2008; 山田・柳下, 2013b; 吉郷, 2014b; Iwatsuki et al., 2017; 公益財団法人鹿児島市水族館公社, 2018; 園山ほか, 2020; 小枝・今北, 2020; 赤池

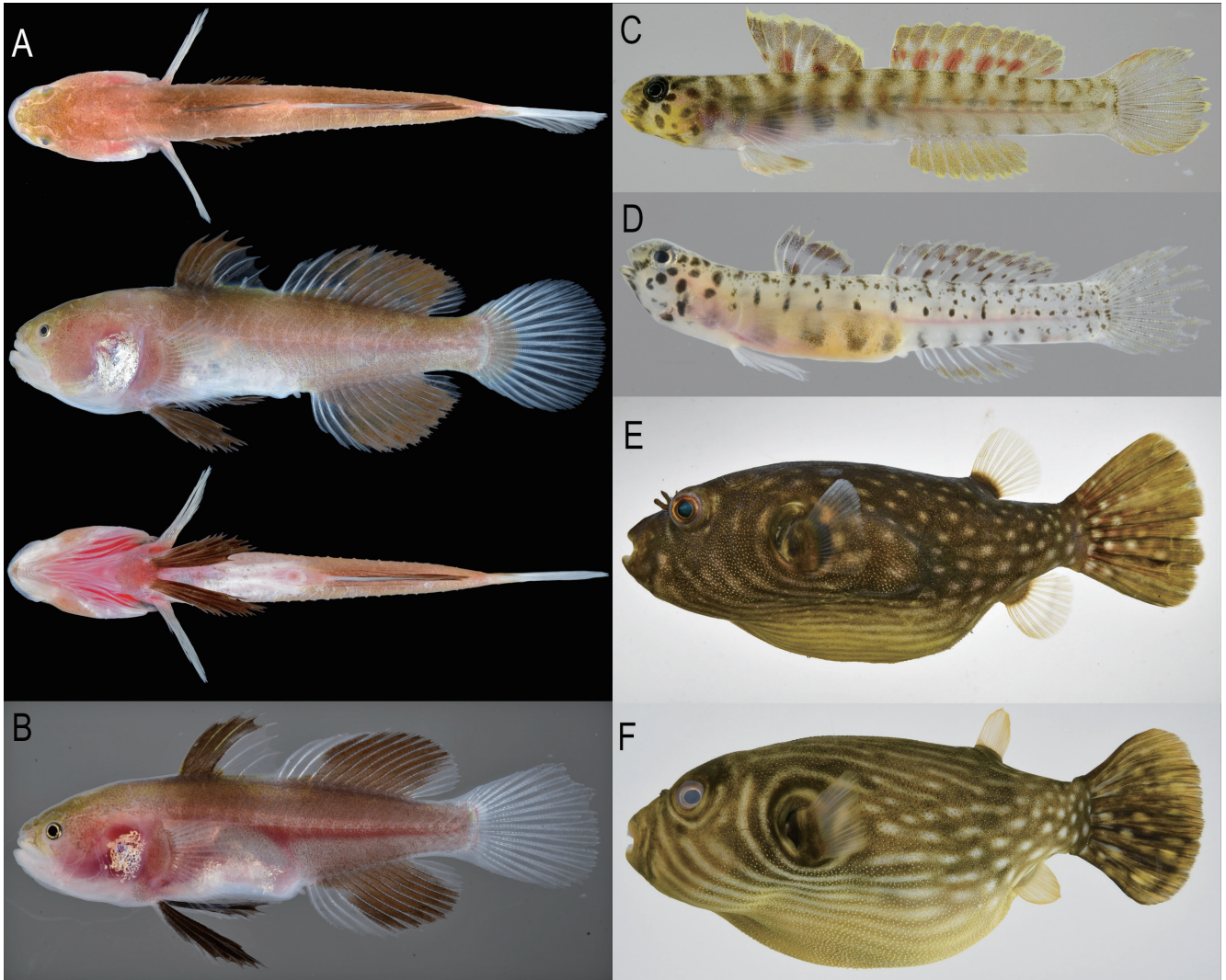


Fig. 2. Fresh specimens of *Austrolethops wardi* (A: KAUM-I. 215256, 34.9 mm SL; B: KAUM-I. 215257, 19.5 mm SL), *Kelloggella quindecimfasciata* (C: KAUM-I. 153942, male, 20.1 mm SL; D: KAUM-I. 153939, female, 15.9 mm SL), and *Arothron reticularis* (E: KAUM-I. 215302, 91.7 mm SL; F: KAUM-I. 215364, 90.2 mm SL) from Ishigaki-jima island, Japan.

ほか, 2021; 増田, 2022; 是枝ほか, 2022; Matsuura and Motomura, 2022; 古橋ほか, 2023; 是枝・本村, 2024). 本研究により新たに石垣島から本種が記録された。

石垣島の魚類相の解明に向けた問題点

上述の通り, Senou et al. (2006b) は石垣島における浅海魚の総種数と各科に含まれる種数を報告したものの, 種リストは提示されておらず, 石垣島の正確な魚類相は不明な状況にある。本研究において初記録とみなした種には, Senou et al. (2006b) が石垣島産の魚類とみなした種を含む可能性があるが, Senou et al. (2006b) の時点における同定状況を確認することは不可能であるため, 本研究における Senou et al. (2006b) を除いた文献調査の結果, 記録が見当たらなかったものを初記録種とした。これには既存の知見で琉球列島や八重山諸島とのみ表記されていたものは含まない (オグロエソを除く)。本研究において初記録とみなした 11 種のうち 6 種 (ボウヨウジ, アカフジテンジクダイ, カガミテンジクダイ, ヨミノハゼ, ハダカハゼ, ワモ

ンフグ) は潮間帯で採集されたものであり, 更に 3 種 (オグロエソ, スダレヤライイシモチ, ワモンフグ) は沿岸から釣獲されたものである。これにはヤビーポンプという一般的なでない手法で採集されたヨミノハゼも含まれるが, 石垣島の様に多数の目に留まる島嶼の極めて身近な場所からも初記録種が多数得られたことは, 石垣島の魚類相が十分に報告されていないことをよく示している。特にボウヨウジ, アカフジテンジクダイ, スダレヤライイシモチ, ハダカハゼ, およびワモンフグは近年に著者らの行った南西諸島の調査では一般的に確認される魚種である (Fujiwara and Motomura, 2020; 和田ほか, 2021; 赤池ほか, 2021; 古橋ほか, 2023; 是枝・本村, 2024; 是枝, 未発表データ)。石垣島の魚類相特性を正確に把握するには, 過去の記録や博物館標本を用いた包括的な研究が必要である。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさま

には、標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。和田昇己氏（元三重大大学）には 2022 年以降の石垣島におけるカガミテンジクダイの生息情報をお教えいただいた。沖縄県水産海洋技術センター石垣支所の服部素直氏と株式会社エコリスの赤池貴大氏には採集にご協力いただいた。いおワールドかごしま水族館の石原祥太郎氏には石垣島産標本の収集にご協力いただいた。匿名の査読者と Ichthy 担当編集委員の吉田朋弘氏には本稿の改訂にあたり適切な指摘を頂いた。以上の方々に謹んで御礼申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 研究奨励費（23KJ1779・24KJ1838）、公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費（20H03311・21H03651・23K20304・24K02087）、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型（CREPSUM JPJSCCB20200009）、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた。

引用文献

- 阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024. 口永良部島から得られた南限更新記録 2 種を含む魚類 57 種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 45: 1–14.
- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健太郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖永良部島初記録の魚類 66 種、およびサザンプラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 13: 18–35.
- 明仁・坂本勝一・池田裕二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・畠中柚菜・本村浩之. 2022. 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類 86 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 15–31.
- Dewa, Y. and H. Motomura. 2024. *Enneapterygius pallidoserialis*, a junior synonym of *Enneapterygius erythrosoma* (Perciformes: Tripterygiidae). Species Diversity, 29: 409–413.
- 出羽優風・本村浩之. 2025. 鹿児島県本土と宇治群島初記録のゴマフヘビギンポ、および本種の標準と名に関する再検討. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 52: 46–53.
- Dewa, Y., S. Tashiro and H. Motomura. 2023. A new species of the genus *Enneapterygius* (Perciformes: Tripterygiidae) from Japan and the Philippines, with a synopsis and synonymy of related species. Zootaxa, 5374: 333–360.
- 江口勝久・中島 淳・西田高志・乾 隆帝・中谷祐也・鬼倉徳雄・及川 信. 2008. 宮崎県北川の魚類相. 九州大学大学院農学研究学芸雑誌, 63: 15–25.
- Fricke, R. 1997. Tripterygiid fishes of the western and central Pacific (Teleostei). Koeltz Scientific Books, Königstein. ix + 607 pp.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island, in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 14: 1–73.
- 深谷真央. 2023. 生態写真に基づく相模湾北西部沿岸域の魚類相. 神奈川自然誌資料, 44: 57–87.
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2023. 大隅諸島の種子島と屋久島から得られた淡水・汽水性魚類 15 種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 29: 20–33.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録（V）横須賀市自然・人文博物館及び相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博物館資料集, 46: 1–127, 4 pls.
- 畑 晴陵. 2018. オグロエソ, p. 92. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編）黒潮あたる鹿児島県の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵. 2020. オグロエソ, p. 108. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編）大隈市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2017. 大隅半島東岸内之浦湾から得られたオグロエソ. Nature of Kagoshima, 43: 49–52.
- 林 公義. 1993. 日本初記録（奄美諸島）のタナバタメギス科魚類. 横須賀市博物館研究報告（自然科学）, 41: 27–29.
- 林 公義. 1997. オオメタナバタメギス, p. 282. 岡村 収・尼岡邦夫（編）山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 林 公義. 1999. インドネシア, バンガイ島のテンジクダイ科魚類 *Pterapogon kauderni* の産卵行動. 横須賀市博物館研究報告（自然科学）, 46: 41–48.
- 林 公義. 2013a. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013b. ヘビギンボ科, pp. 1280–1290, 2097–2099. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・藍澤正宏・土居内龍. 2013. メギス科, pp. 806–810, 1973–1975. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録（改訂）. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, 53: 127–218.
- 伊藤勝敏. 2003. 改訂版 伊豆の海 海中大図鑑. データハウス, 東京. 377 pp.
- 伊藤勝敏. 2009. 沖縄の海 海中大図鑑. データハウス, 東京. 457 pp.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tnaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 16: 1–116.
- 加藤昌一. 2014. ネイチャーウォッチングガイドブック 改訂新版 海水魚. 誠文堂新光社, 東京. 383 pp.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- Kneer, D., H. Asmus, H. Ahnelt and J. A. Vonk. 2008. Records of *Austrolethops wardi* Whitley (Teleostei: Gobiidae) as an inhabitant of burrows of the thalassinid shrimp *Neaxius acanthus* in tropical seagrass beds of the Spermonde Archipelago, Sulawesi, Indonesia. Journal of Fish Biology, 72: 1095–1099.
- 小枝圭太. 2018. スダレヤライイシモチ, p. 208. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編）黒潮あたる鹿児島県の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2020. スダレヤライイシモチ, p. 242. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編）大隈市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.

- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. v + 120 pp.
- 小枝圭太・今北大介. 2020. 四国初記録のフグ科の稀種ワモンフグ. *Kuroshio Biosphere*, 17: 18–21.
- 是枝伶旺・古橋龍星・久木田直斗・本村浩之. 2022. 薩摩半島から得られた九州初記録 10 種を含む, 鹿児島県本土初記録の暖水性魚類 16 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 20–38.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2024. 奄美大島初記録のワモンフグ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 22–27.
- 公益財団法人鹿児島市水族館公社. 2018. 鹿児島水族館が確認した鹿児島県の定置網の魚たち. 増訂版. 公益財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島. 335 pp.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. *神奈川自然誌資料*, 43: 97–142.
- 國島大河・松野茂富・佐藤真央. 2023. 西表島で採集されたカガミテンジクダイ *Yarica hyalosoma* (Bleeker, 1852). *Fauna Ryukyuana*, 68: 21–25.
- 前田知範・久木田直斗・是枝伶旺・本村浩之. 2024. 鹿児島県と宮崎県から得られた九州沿岸初記録のアカフジテンジクダイ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 46: 25–30.
- 益田 一・小林安雅. 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 東海大学出版会, 東京. 465 pp.
- 増田 修. 2022. 近年確認された播磨灘の珍客たち. やまのうえのさかなたち 姫路市立水族館だより, 77: 2–4.
- 松沼瑞樹. 2019. ヨウジウオ科, pp. 56–60. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 松浦啓一. 1997. ワモンフグ, p. 710. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Matsuura, K. and H. Motomura. 2022. Identification guide to pufferfishes (Tetraodontidae, Tetraodontiformes) of the South China Sea. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. 40 pp.
- Matsuura, K. and M. Toda. 1981. First records of two pufferfishes, *Arothron mappa* and *A. reticulatis*, from Japan. *Japanese Journal of Ichthyology*, 28: 91–93.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準名と学名. Online ver. 30. [URL](https://www.kagoshima-u.ac.jp/~fish/) (2024 年 4 月 11 日閲覧)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Motomura, H. and M. Matsunuma. 2022. Fish diversity along the Kuroshio Current, pp. 63–78. In Kai, Y., H. Motomura and K. Matsuura (eds.) *Fish diversity of Japan: evolution, zoogeography, and conservation*. Springer Nature Singapore Pte Ltd., Singapore.
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125.
- 村瀬敦宣・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏. 2023. 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 33–114.
- 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野. xlix + 2428 pp.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361.
- 中村潤平. 2022. エソ科, pp. 37–39. 岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 大西 遼・松永康大・平嶋健太郎. 2024. 和歌山県串本町から得られたヨミノハゼ稚魚の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 41: 1–4.
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle and J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the Inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, 11: 1–74, pls. 1–19.
- 佐久間夢実. 2023. 海中展望塔に集まる魚 2022 年. マリンパビリオン, 52: 13–15.
- Sato, T. and T. Komai. 2023. A new species of the mud shrimp genus *Naushonia* Kingsley, 1897 (Decapoda: Gebiidae: Laomediidae) from the Ryukyu Islands, southwestern Japan, inhabiting burrows of an axiidean shrimp. *Zootaxa*, 5270: 561–572.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006a. Coastal fishes of Ie-jima island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006b. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, 41: 389–542.
- 篠原現人. 2019. エソ科, p. 34–36. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152.
- 橘 皆希・岡村恭平・松永 翼・遠藤広光. 2024. 高知県から得られたテンジクダイ科魚類 10 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 48: 55–63.
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144 種の追加記録. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 49: 107–118.
- 田代郷国. 2019. ヘビギンボ科, pp. 299–311. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 和田英敏・古橋龍星・山田守彦・藤井琢磨・吉田朋弘・Kunto Wibowo・荒木萌里・伊藤大介・赤池貴大・中川龍一・渋谷駿太・是枝伶旺・出羽優風・餅田 樹・本村浩之. 2021. 徳之島初記録の魚類 122 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 35–52.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島久湾の魚類相. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 38: 119–132.
- 山田梅芳. 1997. オグロエソ, p. 113. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013a. エソ科, pp. 412–420, 1846–1847. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013b. フグ科, pp. 1728–1742, 2239–2241. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.

- 吉田卓史・伊東正英・山田守彦・本村浩之. 2025. 薩摩半島西岸と南岸から得られた初記録の魚類 62 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 53: 23–39.
- 吉田朋弘. 2013a. オオメタナバタメギス, p. 100. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2013b. アカフジテンジクダイ, pp. 112–113. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2014. アカフジテンジクダイ, pp. 188–189. 本村浩之・松浦啓一(編) 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2019a. メギスコ, pp. 105–110. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 吉田朋弘. 2019b. テンジクダイ科, pp. 116–145. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 吉田朋弘. 2022. テンジクダイ科, pp. 106–113. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之(編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 27–64. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 吉田朋弘・中村千愛・本村浩之. 2013. 鹿児島県のメギスコ魚類相. *Nature of Kagoshima*, 39: 31–45.
- 吉郷英範. 2014a. 庄原市立比和自然科学博物館収蔵のトゲウオ目魚類(硬骨魚類). 比和科学博物館研究報告, 55: 279–326, pls. 1–4.
- 吉郷英範. 2014b. 琉球列島産淡水性魚類相および文献目録, *Fauna Ryukyuana*, 9: 1–153.
- 吉郷英範. 2021. 庄原市立比和自然科学博物館収蔵のテンジクダイ科魚類(硬骨魚綱). 比和科学博物館研究報告, 63: 1–41, pls. 1–6.
- 吉郷英範・市川真幸. 2012. 庄原市立比和自然科学博物館収蔵のメギスコ魚類(硬骨魚類: スズキ目). 比和博物館研究報告, 52: 1–32.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立比和自然科学博物館魚類収蔵標本目録 IV. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 5: 1–52, 1 pl.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2002. 比和町立比和自然科学博物館魚類収蔵標本目録 II. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 3: 85–136, 1 pl.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立比和自然科学博物館魚類収蔵標本目録 III. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 4: 31–76, 1 pl.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科学博物館魚類収蔵標本総合目録. 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告, 8: 1–112, 1 pl.
- 吉野雄輔. 2018. 山溪ハンディ図鑑 13. 改訂版. 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 544 pp.